



2012 年度活動報告書

【研究事業部】

■HCD-Net フォーラム 2012

「HCD・UX の学びと人材」

開催日時:2012 年 5 月 19 日(土)13:00~17:30

開催場所:東海大学 高輪校舎

参加人数:149 名

〔基調講演+ワークショップ〕

- ・「パターン・ランゲージによる経験のマイニングと共有」

井庭 崇氏(慶應義塾大学)

〔パラレルセッション〕

セッション A:働きながら学ぶ~HCD における人材育成

- ・「シャープにおけるユーザ中心設計の為の人材育成」 佃 五月氏(シャープ)
- ・「IT 技術者への HCD 教育の課題と展望」 葛西 秀昭氏(小樽商科大学)
- ・「Web 政策における HCD 人材の育成」 羽山 祥樹氏(hcdvalue)

セッション B:初心者のための HCD 入門

- ・「人間中心設計の考え方」 郷 健太郎氏(山梨大学)
- ・「新入社員のためのユーザビリティ評価:入門編」 伊藤 泰久氏(U'eyes Design)

セッション C: これからのビジネスと HCD

- ・「Lean UX の動向、Lean UX の概要とその実態の紹介」坂田 一倫氏(楽天)
- ・「ビジネスモデルキャンバスを活用したアクティビティ、ワークショップや実際のコンサルティングプログラムの紹介」山崎 和彦氏(千葉工業大学)
- ・「HCD Phased Approach の紹介、ビジネスにおける HCD プロセス活用の為のフェーズアプローチ」長谷川 敦士氏(コンセント)

■2012 年度 第 4 回 HCD 研究発表会

開催日時:2012 年 12 月 14 日(金)10:00~18:15

開催場所:文京シビックセンター スカイホール

参加人数:92 名

〔資格認定セッション〕

- ・「認定人間中心設計専門家 2012 年度資格認定に関する説明会」

〔ショートセッション〕

- ・「マルチタッチインタフェース機器における“直感的”と感じる GUI の動的表現の要因分析」宮川 正道氏、安藤 昌也氏(千葉工業大学)
- ・「文化特性を考慮した観察手法としての KH 法の提案」浅野 花歩氏(千葉工業大学大学院)
- ・「ブランド体験を考慮したエクスペリエンスデザインの手法の研究」黒坂 晋氏、山崎 和彦氏(千葉工業大学大学院)
- ・「人の行為を促すプロダクトデザインの研究」脇屋 玲央氏(千葉工業大学大学院)
- ・「人の興味を惹くインタラクションデザインの研究」小畑 一真氏、山崎 和彦氏(千葉工業大学大学院)



〔事例・手法〕

- ・「ファセット検索と統合されたキーワードサジェスト方式:ユーザ評価と実システムへの適用」
堀 雅洋氏、木村 久美子氏、喜多 千草氏、加藤 隆氏(関西大学)
- ・「ユーザー体験を重視の BtoB 系 WEeb サイト構築の研究」
安齋 利典氏、粕谷 俊彦氏(三菱電機)
- ・「UCD 効果分析のための実践的アプローチ」
河野 泉氏、安 浩子氏、菅原 暁氏、西川 昌宏氏(NEC)
- ・「サービス開発者参画型ユーザ評価手法導入の検討」
嵯峨田 良江氏、中谷 桃子氏、大野 健彦氏、浅野 陽子氏(NTT サービスエボリューション研究所)
- ・「HMI メトリクスの考察－HMI 品質を診断するために」
鱗原 晴彦氏、神田 周一氏(U'eyes Design)、平沢 尚毅氏(小樽商科大学)
- ・「HCD ワークショップにおけるコツの研究-企業向け研修と地域コミュニティーセミナーとの比較」浅野 智氏(横浜デジタルアーツ専門学校)
- ・「体験の視覚化手法についての考察」山崎 和彦氏(千葉工業大学)

〔活動報告〕

- ・「失敗してもよい場を創って学ぶ -コミュニティ hcdvalue の活動報告-」
佐々木 将之氏、小林 真子氏、伊藤 英明氏(hcdvalue)
- ・「SF 映画に学ぶ 近未来ユーザインタフェースの上流プロセス」
松原 幸行氏(キヤノン)、飯尾 淳氏(三菱総合研究所)、飯塚 重善氏(神奈川大学)
- ・「APCHI 報告」黒須 正明氏(放送大学)

〔ポスターセッション〕

- ・「HCD とビジネスモデルキャンバスを組み合わせた製品・サービス開発～脳波と音楽を組み合わせた製品プロジェクトを例に～」小川 宗紘氏、岩田 昂己氏、佐久間 正範氏、徳永 康介氏、辻 浩司氏(産業技術大学院大学)
- ・「古都鎌倉における新たな定期遊覧バスの提案」
西 正希氏、田沼 華奈子氏、飯塚 重善氏(神奈川大学)
- ・「KA 法による本質的価値分析と、未充足価値(アンメットニーズ)の抽出の考察と検証」
松崎 希氏(hcdvalue)
- ・「茶販売店における Web 販路拡大に向けた検討」種市 優太氏(神奈川大学)

■国際会議報告：APCHI2012 報告

2012年8月28日～31日の4日間、島根県松江市くにびきメッセにて The 10th Asia Pacific Conference on Computer Human Interaction (APCHI2012) をHCD-netとSIGCHI共催の形で開催した。本国際会議 APCHI シリーズは、人間とコンピュータとの相互作用分野全体を対象としたアジア・パシフィック地域の代表的な国際会議であり、1996年の第1回よりこれまで、ほぼ隔年ペースで実施されてきた。今回が10回目の記念すべき大会となった。HCD-netの理事には、黒須正明理事長に Steering Committee Chair、山崎和彦副理事長に Tutorial/Workshop 担当及び Design Director、早川誠二理事、松原幸行両副理事長にスポンサー担当、鱗原晴彦事務局長・理事に会計担当、郷健太郎理事、辛島光彦両理事に大会長、山岡俊樹理事に Tutorial/Workshop 担当として、ご活躍いただいた。このほかにも、HCD-netにゆかりの深い方々に大会実行委員、プログラム委員、Associate Program Chair (APC)等にご就任いただきご尽力いただいた。この場を借りて深く御礼申し上げたい。APCHI2012には155件の投稿



●Human Centered Design Organization

論文数があり、そのうち 25.5%を Long talk、30%を Short talk として採択した。さらにはポスター発表として 89 件を採択した。キーノートスピーカーとして、安西祐一郎教授（独立行政法人日本学術振興

会）、Shumin Zhai 氏（Google Research）、Marc Hassenzahl 教授（Folkwang University）、木村朝子教授（立命館大学）をお迎えし、大会テーマ「Reflect、Discover and Innovate」の議論を行った。最終的な会議の参加登録者は 26 ヶ国 255 名で、盛況のうちに幕を閉じた。HCD-net の会員の皆様にも多数ご参加 いただいた。また大会及び HCD-net の活動にご理解いただいた複数の企業・組織に協賛いただいた。ご参加くださった皆様、協賛企業・組織 の方々にも改めて深く感謝する次第である。



【教育事業部】

■HCD-Net セミナーin 名古屋 2012(第 1 回)

開催日時:2012 年 4 月 28 日(土)13:20~20:00

開催場所:ウインクあいち

参加人数:37 名

【講師】

・「HCD 概論(HCD の基本概念、ペルソナ、ユーザビリティの考え方など)」

小林 正氏(愛知工業大学)

・「HCD における視覚化手法について」・ミニ・ワークショップ

浅野 智氏(横浜デジタルアーツ専門学校)

・「HCD における視覚化手法について」・講義

浅野 智氏(横浜デジタルアーツ専門学校)

■HCD-Net セミナーin 名古屋 2012(第 2 回)

開催日時:2012 年 5 月 26 日(土)13:20~20:00

開催場所:愛知工業大学

参加人数:31 名

【講師】

・「HCD 概論 2(オブザベーション)」 小林 正氏(愛知工業大学)

・「カップ焼きそばのオブザベーション(ワークショップ)」 浅野 智氏(横浜デジタルアーツ専門学校)

■HCD-Net セミナーin 名古屋 2012(第 3 回)

開催日時:2011 年 6 月 30 日(土)13:20~20:30

開催場所:ウインク愛知

参加人数:40 名

【講師】

・「HCD 概論 3(HCD 演習 2 題)」 小林 正氏(愛知工業大学)

・「ワークショップ(ストーリーテリング)」酒井 洋平氏(NHN Japan)

■HCD-Net セミナーin 名古屋 2012(第 4 回)

開催日時:2011 年 7 月 14 日(土)13:20~17:00

開催場所:ウインク愛知

参加人数:30 名

【講師】

① 海外最新事情の紹介

・「IA Summit 2012 の報告」 平野 秀幸氏(アクアリング)

・「UXPA7 年次総会の報告」安藤 昌也氏(千葉工業大学)

② ワークショップ

・「UX デザインのためのユーザー体験価値分析法」安藤 昌也氏(千葉工業大学)

■DIY ユーザビリティテスト基礎講座@静岡

開催日時:2012 年 7 月 31 日(火) 14:00~16:45



●Human Centered Design Organization

開催場所: 静岡市クリエイター支援センター

参加人数: 16 名

〔講師〕

- ・樽本 徹也氏(利用品質ラボ)

■ストーリーテリングの講演とワークショップ@大阪

開催日時: 2012 年 8 月 18 日(土)13:20~17:00

開催場所: エルおおさか

参加人数: 13 名

〔講演者〕

- ・「講演: ストーリーテリング」酒井 洋平氏 (UX Tokyo)
- ・「ワークショップ」酒井 洋平氏 (UX Tokyo)

■HCD-Net セミナー in 名古屋 2012(第 5 回)

開催日時: 2012 年 8 月 25 日(土)13:30~17:00

開催場所: 愛知工業大学

参加人数: 28 名

〔講師〕

- ・「DIY ユーザビリティテスト基礎講座」樽本 徹也氏(利用品質ラボ)

■HCD-Net セミナー in 名古屋 2012(第 6 回)

開催日時: 2012 年 9 月 29 日(土)13:20~17:00

開催場所: ウィンクあいち

参加人数: 22 名

〔講師〕

- ・「感動体験から商品を発想する XB 法ワークショップ」三澤 直加氏(グラグリッド)

■HCD-Net セミナー in 横浜「平成 24 年度における HCD-Net 理事・評議員の研究発表再演」

開催日時: 2012 年 10 月 7 日(日)13:00~17:30

開催場所: 横浜デジタルアーツ専門学校

参加人数: 74 名

〔講演〕

日本デザイン学会発表:

- ・「サービス・デザインの方法論に関する考察」近藤 朗氏
- ・「ストーリーテリングとユーザエクスペリエンス」脇阪 善則氏、山崎 和彦氏
- ・「論理的 GUI デザインのための BtoB 製品における利用状況の明確化」水本 徹氏
- ・「ユーザーエクスペリエンスを検討するためのプロトタイピング手法」浅野 智氏

ヒューマンインタフェース・シンポジウム発表:

- ・「ユーザーエクスペリエンスデザインのためのストーリーテリングの活用の提案」山崎 和彦氏
 - ・「サービスイノベーションデザインをワークショップで学ぶ」浅野 智氏
 - ・「技術展示方法と研究者・技術者の閲覧行動の関係に関する研究」安藤 昌也氏
- ポスターセッション:



●Human Centered Design Organization

- ・「視覚言語を応用したサービススケッチツールの開発」上平 崇仁氏
- ・「KA 法とデザインパターン応用の試み」和井田 理科氏

■セミナー「理解のデザイン-IA の基本をおさえよう-」

開催日時:2012 年 11 月 28 日(水)18:00~20:00

開催場所:渋谷セルリアンタワー 11 階

参加人数:58 名

【講師】

- ・「IA の考え方」長谷川 敦士氏(コンセント)

■HCD-Net セミナーin 大阪

開催日時:2013 年 3 月 19 日(火)15:00~18:00

開催場所:株式会社 TAM コワーキングスペース

参加人数:36 名

【講演】

- ・「携帯電話開発におけるペーパープロトタイピングの活用事例」 渡辺 英範氏(京セラ)
- ・「業務用製品開発における施設ペルソナ・ユーザビリティ評価の取り組み事例」
水本 徹氏(シスメックス)

【演習】

- ・「ペーパープロトタイピングとユーザビリティ評価」 渡辺 英範氏(京セラ)、
水本 徹氏(シスメックス)



【広報社会化事業部】

■第 27 回 HCD-Net サロン「HCD から考える Web サービスとグローバル展開」

開催日時:2012 年 5 月 23 日(水)18:30~20:30

開催場所:文京シビックセンター

参加人数:35 名

〔講師〕

- ・「サービス国際会議の紹介」 近藤氏
- ・「富士ゼロックス Skydesk の開発について」小栗氏(富士ゼロックス)
- ・「カルチュレード紹介とユーザーとしての質問」立原氏

■第 28 回 HCD-Net サロン「マーケティングと UX デザイン」

開催日時:2012 年 7 月 3 日 19:00~21:00

開催場所:クリエイティブスペース amu

参加人数:36 名

〔講師〕

- ・高広 伯彦氏(スケダチ)
- ・安藤 昌也氏(千葉工業大学)
- ・長谷川 敦士氏(コンセント)

■第 29 回 HCD-Net サロン「社会と HCD」

開催日時:2012 年 8 月 8 日(水)18:30~20:40

開催場所:東京ウィメンズプラザ

参加人数:48 名

〔講師〕

- ・「社会と HCD」 山崎 和彦氏(千葉工業大学)
- ・「フューチャーセンターの活動」野村 恭彦氏(フューチャーセッションズ)
- ・「コミュニティデザインの活動」若杉 浩一氏(パワーブレイス)

■第 30 回 HCD-Net サロン「HCD 活用事例とその効果」in 神戸

開催日時:2012 年 9 月 21 日(金)17:00~19:30

開催場所:デザイン・クリエイティブセンター

参加人数:42 名

〔講師〕

- ・「シスメックスにおける HCD 活動」有吉 俊輔氏(シスメックス)
- ・「NEC における HCD 活動」河野 泉氏(日本電気)
- ・「シャープにおけるユーザー中心設計のための人材育成」佃 五月氏(シャープ)
- ・「京セラにおける HCD の活用事例」渡辺 英範氏(京セラ)
- ・「ピクセラにおける UI デザイン開発」山岸 智子氏(ピクセラ)
- ・「エクスペリエンス・ビジョンと事例」山崎 和彦氏(千葉工業大学)

■第 31 回 HCD-Net サロン「サービスデザインと HCD」

開催日時:2012 年 11 月 21 日(水) 18:30~20:30



開催場所:クリエイティブスペース amu

参加人数:27名

〔講師〕

- ・「ISIDC 2012 報告」 近藤 朗氏
- ・「サービスデザイングローバルカンファレンス 2012 報告」 長谷川 敦士氏(コンセント)

■人間中心設計フォーラム 2012-組込型ソフトウェアのためのユーザビリティと事例-

開催日時:2012年11月14日(水)10:00~12:00

開催場所:パシフィコ横浜

参加人数:200名

〔講演者〕

- ・「キヤノンにおけるデジタルカメラの GUI 開発事例紹介」和久井 立氏(キヤノン)
- ・「ユーザー視点とユーザー要求が実現する HCD、UX」 山本 雅康氏(U'eyes Design)
- ・「ブラザー工業における HCD 事例」 永田 司氏(ブラザー工業)
- ・「業務用製品開発における人間中心設計の取り組み事例」水本 徹氏(シスメックス)
- ・「これからの人間中心設計のアプローチとは」 山崎 和彦氏 (千葉工業大学)

■HCD-Net 賛助会員様向けイベント「HCD とサービス」

開催日時:2012年12月21日(金)13:30~21:00

開催場所:文京シビックセンター スカイホール

参加人数:34名

〔講演者〕

- ・「ミクシィにおける HCD の導入と実践」 馬場 沙織氏(ミクシィ)
- ・「ネット証券における HCD の取り組みについて」水田 英樹氏(楽天証券)
- ・「無料通話アプリ LINE の開発プロセスにおける HCD」 本田 樹氏(NHN Japan)
- ・「リアルとバーチャルの融合、行動や体験をデザインする」 末吉 隆彦氏(クウジツ)

■第 32 回 HCD-Net サロン「インタラクションと UX in 京都」

開催日時:2013年1月25日(金)17:00~20:00

開催場所:京都工芸繊維大学

参加人数:86名

〔講演者〕

- ・「サービス、インタラクションと UX」 山崎 和彦氏(千葉工業大学)
- ・「これからのデザイン教育のこころみ」 榎 勝彦氏(京都工芸繊維大学)
- ・「動きつづける人とデザイン」 渡邊 恵太氏(JST ERATO)
- ・「シャープにおけるスマートフォン UX の事例」 佐藤 啓一郎氏(シャープ)

〔パネル発表〕

- ・「顧客行動心理の調査手法「ご近所リサーチ」の提案(Web マーケティング実践事例)」
徳見 理絵氏(シナジーマーケティング)
- ・「製品開発における UCD の取り組み」 繁延 大氏(京セラドキュメントソリューションズ)
- ・「ブランド体験を考慮したエクスペリエンスデザインのための手法の研究」
黒坂 晋氏(千葉工業大学)



- ・「Edward Tufte が語る情報デザイン」水口 実氏 (フジ印刷)
- ・「UI デザイナーによるアナログゲーム創作の取り組み」
福田 卓郎氏、久保田 哲生氏、吉岡 英俊氏(ソフトデバイス))
- ・「人の行為を促すプロダクトデザインの研究」脇屋 玲央氏(千葉工業大学)
- ・「人の興味を惹くインタラクティブデザインの研究」小畑 一真氏(千葉工業大学)
- ・「文化特性を考慮した観察手法としての KH 法の提案」浅野 花歩氏(千葉工業大学)
- ・「ビジネスビデオエスノグラフィ ～開発プロセスへの導入における課題～」
政木 佳奈氏(京セラ)
- ・「セルフ健康管理システム「健康プロモ」」田輪 恭久氏(オーバルプラン)
- ・「施設ペルソナを用いた業務用製品のインタラクティブデザイン」水本 徹氏(シスメックス)
- ・「Twitter で遠隔操作可能な在室表」小原 勇志氏(京都産業大学)
- ・「案内用図記号のための行為者表現視点を考慮した視覚シンボル組み合わせ方式の検討」
梅景 晃平氏(関西大学)
- ・「Making softdevice LAB」日高 裕子氏、福田 卓郎氏、野原 千佳子氏(ソフトデバイス)
- ・「エモーショナル ニューメディア」秀野 雄一氏(京都工芸繊維大学)
- ・「健康と運動を促す電動アシスト自転車の UI」姜 美善氏(京都工芸繊維大学)
- ・「デジタルカメラを用いた操作課題達成率と機器に対する理解度の関係性」
石原 啓介氏(和歌山大学)
- ・「GK京都の公共デザインの紹介」梶川 伸二氏(GK 京都)

■HCD と UX のフューチャーセッション-これからの活動を考える-

開催日時:2013 年 2 月 4 日(月)18:30~20:30

開催場所:株式会社コンセント

参加人数:20 名

【内容】

HCD-Net ではリブランディングに取り組んでいる。本セッションはその一環として実施した。リブランディングは、①新たな役割の理解、②それを伝える適切なブランドマーケティング、の2つのアプローチが考えられる。第1回目である、「HCD と UX のフューチャーセッション」は、上記①に属し、今後の課題をあぶり出す場と位置づけ、実施した。今回試みた「フューチャーセッション」は、社会的な課題を気づき解決の糸口を得る手法として広まりつつある。Glagrid 社の尾形氏と三澤氏にファシリテーションをお願いし、短い時間であったが、中身の濃いセッションを行うことができた。セッションは、フルーツバスケットを模したゲーム感覚の自己披露に始まり、メンバーを変えての小グループ討議、円陣を組んでの課題の発表等々、楽しい雰囲気の中、20 名がアクティブに取り組んだ。

■第 33 回 HCD-Net サロン「ヨーロッパと HCD」

開催日時:2013 年 2 月 26 日(火)19:00~21:20

開催場所:株式会社ドリコム セミナールーム

参加人数:40 名

【講演者】

- ・「国際的なユーザビリティ ワークにおける課題」松原 幸行氏(キヤノン)
- ・「UCD in the Netherlands: Cultural Probes and Contextual Design」Carlijn Compen 氏
- ・「ヨーロッパと日本のユーザビリティ手法の相違点について」Francis Fung 氏



●Human Centered Design Organization

■人間中心設計推進機構(HCD-Net)ニュースレターの発行

・毎月末にイベント情報等を掲載したニュースレターを会員専用のメーリングリストに発信しています。



【規格化/認定事業部】

■2012 年度人間中心設計専門家「資格認定

〔審査結果〕

NPO 法人人間中心設計推進機構 (HCD-Net) が、2009 年度から実施している「人間中心設計専門家」資格認定の 2012 年度 (第 4 期) の審査が完了しました。既に合格者の発表はすんでいますが、今年度は 65 名の方々が人間中心設計専門家として認定されました。内訳は、HCD-Net 会員 32 名、一般 33 名です。昨年度は 43 名の方々が認定されましたが、それに比べ受験者数、合格者数とも大きく増加しています。初年度からの認定者数の減少傾向にも歯止めがかかりました。これは、広報を積極的に展開したことと、この制度自身の認知度がこれまでの経緯などから向上してきていることが考えられます。

〔審査経緯〕

今年度は、以下の日程で審査を行いました。

募集要項公開	2012 年 12 月 3 日
申請開始	2012 年 12 月 20 日
申請締切	2013 年 1 月 11 日
書類提出締切	2013 年 1 月 31 日
合格発表	2013 年 3 月 31 日

今年度も、受験者説明会、審査員説明会を開催しました。審査員講習会は、審査のばらつきをより少なくするためと、審査要領を各審査員により正確に理解していただくことで、審査精度と効率の向上を狙いにしました。また、受験者向け講習会では、制度の趣旨や認定専門家の役割、必要とされるコンピタンスなどを理解していただきました。いずれの会も、数多くの方の参加がありました。

認定に必要なコンピタンスに関しては、まず一部のタイトルをわかりやすく表現し直しました。それに伴い、コンピタンス解説書の説明も修正しました。必要コンピタンスは、昨年度と同様に「ユーザビリティエンジニアリング能力」「HCD 適用・開発能力」の各コンピタンスから 7 項目以上、「HCD プロジェクトマネジメント能力」から 2 項目以上を必須としました。

また、今年度も専門資格認定に関する広報に力を入れ、Web サイト上で受験者向けに認定者の声を掲載するなど、どのような資格なのか、どのような人が認定されているのかをより理解していただけるようにしました。さらに、メディアの協力をいただき、一般の方にも広く告知しました。その結果、当初の見込みを上回る受験者数、合格者数となりました。

〔審査過程における課題〕

今年度も 1 人の受験者に対して、複数の審査員 (認定人間中心設計専門家) が厳正な審査を実施しました。最終的には、専門資格判定委員会において、一人一人の受験者の審査結果に対して、各審査委員の審査基準の判断の揺れや審査コメントに個別に対応いたしました。

実務経験の不足による HCD プロジェクトマネジメント能力が未充足の傾向や、プロジェクトにおける実践されたコンピタンスの記述が少なく再現性に疑問があるケースはこれまでと同様でした。今年の特徴としては、開発関係者へのヒヤリングをユーザーインタビューの実績として記述している、インスペクションやユーザビリティテストでユーザビリティエンジニアリングの技術を使っていることが読み取れないなど求められているコンピタンスと実践との間にギャップがある記述が多く見受けられました。記述においてはコンピタンスの正しい理解が前提になりますが、ユーザビリテ



エンジニアリング分野のコンピタンスに関する理解不足が目立ちました。書類審査方式で、記述されていることからしか判断できないこの制度においては、申請者の理解と書き方の十分な注意だけでなく、HCD-Net としても今後ともさらにわかりやすい説明を追求してゆく必要があると感じました。

また本年度も従来からも課題になっていた、記述の内容からは申請者が主体的に実践していることや役割分担がわからない事例、対象プロジェクトが異なるのに実践内容の記述にコピーアンドペーストが多く実践が疑問視される事例などが散見されました。

〔2014 年度以降に向けて〕

人間中心設計専門家認定制度は、1 級相当の資格として現在の「認定人間中心設計専門家」と 2 級相当、3 級相当の資格で構成されています。当初は、できるだけ早い時期に 2 級相当、3 級相当の資格認定を開始する予定でしたが、残念ながらまだ 1 級以外は認定を開始できていません。ユーザビリティやユーザーエクスペリエンスに関わるデザイナーやエンジニアの方々、この分野に関心の高い学生などに向け 2013 年度には実施もしくは試行できるよう鋭意検討を進めてゆきたいと考えています。皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、最近のサービスデザインに代表されるようなユーザーエクスペリエンスデザインの重要性を鑑み、人間中心設計実践に求められるコンピタンスの見直しを継続して検討しています。より、現状求められる実践能力に沿ったコンピタンスによる認証が求められるのは言うまでもありません。5 月に開催される HCD フォーラムでもこの話題を取り上げ、皆さまからのご意見を含め来年度以降の専門資格認定に用いるコンピタンスマップに反映させてゆきたいと考えています。



●Human Centered Design Organization

【国際事業部】

■World Usability Day 2012 Japan「グローバルビジネスにおけるユーザビリティ活動のあり方」

開催日時:2012年11月8日(木)18:00~20:00

開催場所:金沢工業大学 虎ノ門キャンパス

参加人数:32名

〔講演者〕

- ・「グローバル展開するユーザビリティビジネスの最新動向」木村 達郎氏(U'eyes Design)
- ・「グローバルなユーザビリティ活動」野田 尚志氏、浜地 理絵子氏 (NECソフト)



【開発事業部】

【感性SIG】

UX と特に関係が深いと考えられる感性の問題について、HCD の立場からさまざまな取組を行っている SIG です。現在は、決められたテーマについてフォトエッセイを持ち寄り、議論をするという形で活動を行っています。

■活動について特記事項

感性 SIG 主査交代、感性 SIG・ML を一新した、APCHI・WS 開催

■活動概要(イベントや活動の一覧と、概要を簡単に紹介)

●第 6 回感性 SIG ミーティング

開催日時:2012 年 5 月 15 日(火)19:00-21:00

開催場所:首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス

参加人数:4 名

内容:(1)主査交代について、(2)衝動買いについての事例紹介 & 議論

●第 7 回感性 SIG ミーティング

開催日時:2012 年 7 月 17 日(火)18:30-20:30

開催場所:首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス

参加人数:4 名

内容:愛着を持っているモノの事例紹介 & 議論

●APCHI2012・WS(Incorporating Kansei Experience into the Design)

開催日時:2012 年 8 月 28 日(火)13:00-15:00

開催場所:くにびきメッセ(島根県松江市)

参加人数:10 名

内容:感性とは何か、何が良いデザインか、良いデザインは良い UX を生むのか、等

●第 8 回感性 SIG ミーティング

開催日時:2012 年 10 月 24 日(水)18:00-20:00

開催場所:首都大学東京・秋葉原サテライトキャンパス

参加人数:4 名

内容:今後の感性 SIG 運営について

■総括と抱負

最近の感性 SIG のミーティング参加者の減少には、ミーティングの開催間隔の問題と、メンバーの所属や興味、関心の変化が考えられたため、10 月にメーリングリストを一新した。同時に行ったアンケートから、「誰が参加するかがわからない」ことがミーティング参加を躊躇させる要因となっていることが確認できたため、ミーティングの開催連絡の折に、参加表明をお願いすることとした。今後、同アンケートで把握したメンバーの関心(感性の概念や測定・評価法、感性品質の向上策)をテーマとして扱っていきたい。また、2013 年度のミーティングは隔月開催(偶数月、6 回)を目標とする。



【SF-SIG】

SF映画を基に、将来のHCD/UXを研究する活動である。SF映画という文脈的なストーリーをトップダウン的に掘り下げて特徴的なシーンを抽出・分析し、近未来のHCD/UXを考察している。月一回の会合に加え、MLや Facebook などSNSを活用し、活発な意見交換を行っている。

■活動について特記事項

- ・2012年度はメンバーの入退会が多かったため、アンケートを行い、MLを一新した。
- ・有志が、分科会形式で、ユーザインタフェースのデザイン観点を体系化する活動を行っている。
- ・同様に、米国で出版された「MAKE IT SO」というSF映画の専門書を輪講するオフ会を開催中。

■活動概要

- ・第4回会合
開催日時: 2012年6月1日(金) 18:30-20:30
開催場所: MRI
テーマ: Minority Report
- ・第5回会合
開催日時: 2012年8月3日(金) 18:30-20:30
開催場所: MRI
テーマ: Iron Man2
- ・原著論文「SF映画に学ぶ近未来ユーザインタフェースのあり方」を HCD-Net に投稿。(8月)
- ・第14回日本感性工学会大会にて口頭発表。(9月)
- ・第6回会合
開催日時: 2012年10月5日(金) 18:30-20:30
開催場所: MRI
テーマ: Iron Man2
- ・第7回会合
開催日時: 2012年12月7日(金) 18:30-20:30
開催場所: MRI
テーマ: Iron Man2
- ・HCD研究発表大会、HCG シンポジウム、International Symposium on Affective Engineering 2013 にて口頭発表。(12月)
- ・第8回会合
開催日時: 2013年2月22日(金) 18:30-20:30
開催場所: MRI
テーマ: Total Recall

■抱負

基本的には、2013年度も2012年と同様、SF映画を題材にした将来のHCD/UXの探索を継続しながら、SF映画内でのUX/ガジェットの表現と実世界例の比較などを行ってみたい。また分科会の方では、デザイン観点を体系化したものの検証および利用メソッドの開発に取り組みたい。

以上